

ウェルおおさか

vol.118 2019.2 隔月発行(偶数月1日)

特集

災害がおきても安心

～備えやつながりづくりのアクション～

- 福祉の歴史散歩：社会福祉思想の先導者・大塩平八郎
—森鷗外歴史小説『大塩平八郎』の言説に関連して—④
- 図書・資料閲覧室からのお知らせ ●講座案内





災害が起きても安心

～備えやつながりづくりのアクション～

昨年、大阪府北部地震、台風21号などで大阪が被害を受けたことから、人々の防災意識は高まり、各地で防災に対する取組みが注目されるようになりました。今回は、災害に対する日頃の備えや発災時のアクションについて、身近な地域の取組みや福祉施設の組織的な取組み取材しました。このような事例を通して、災害時に被害を最小限度にとどめ、安心して暮らせる地域のあり方について考えてみたいと思います。



できることは「自助」と「共助」

災害対策の考え方に「自助」「共助」「公助」があります。「自助」は自分の命は自分で守ること。「共助」は顔の見える範囲における地域コミュニティで助け合うこと。「公助」は公的機関が個人や地域では解決できない問題を解決することをいいます。このうち私たちができることは「自助」と「共助」です。いざという時には、行政が助けてくれるだろう、地震で家が半壊しても、すぐに救助隊が救いだししてくれるだろう、避難所に行けば、食糧がもらえるだろうと考えますが、交通インフラが寸断されるような大規模災害が起きたとき、行政ができる「公助」には限界があります。

「自助」は、食糧や飲料水の備蓄、防災グッズの常備、家具の転倒防止対策など、今すぐできることがたくさんあります。防災の知識を身につけるのも一つの方法でしょう。さて、「共助」は、いったいどのように助け合えばいいのか、ピ

ンとこない人も少なからずいるのではないのでしょうか？

「災害弱者」は、他人事ではない

災害が起きたときは、当たり前ですが、何より先に自分や家族の安全を確保すべきです。次に、地域コミュニティの一員として何ができるかを考えてみてください。そのとき、思い出してほしいのが、高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児、病弱者など、災害時の避難に配慮や支援が必要な「災害弱者」の人たちです。

「災害弱者」は、決して他人事ではありません。なぜなら、今は支援が必要でない人も、病気がケガで足腰が思うように動かなくなったときに災害が起きることは十分あり得るからです。そのとき、近所に自分のことを気にかけてくれる人が誰もいなかったら、どんな気持ちになるのでしょうか？また、目に見える障がいの場合、地域住民から支援の手が伸びる可能性はありますが、外見ではわかりにくい障がいや病気を抱えた人は、

災害時に、より支援が届きにくい状況におかれてしまいます。例えば聴覚障がい者なら、防災無線が聞こえず、逃げ遅れるかもしれません。「災害弱者」は、不安でいっぱいです。近所に思い当たる人がいたら、自分の安全を確保したうえで、声をかけてみてください。

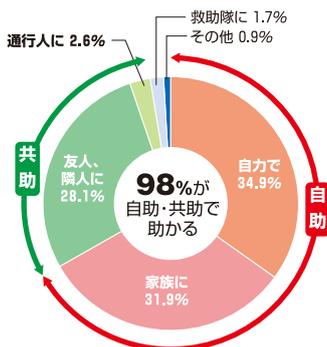
なお、このような「災害弱者」の人たちに配慮された「福祉避難所」が一般の避難所とは別にあることを覚えておくといでしょう。

災害をきっかけにつなごう

自然災害は「地域」をめがけてやってきます。地域で守っていくことが必要となります。防災に限らず、地域住民の高齢化が進み、支援の必要な人が増えてくることを考えれば、今後、ますます地域で助け合っていく「共助」の発想が求められるようになるでしょう。

昨年、いくつかの災害がきっかけとなり、つながりが生まれたり、深まったりした地域も存在します。災害は起きないにこしたことはありませんが、災害や防災をきっかけとして、つながりづくりのアクションを起こしていくこともできそうです。

次ページからは、私たちにとって最も身近な団体である地域活動協議会、そして地域の防災拠点のひとつとして専門機関の立場から組織的に活動している福祉施設が、地域を守るために取り組む災害対策についてみていきます。



(社)日本火災学会:「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より



地域の取り組み 南市岡地域活動協議会

備蓄物資充実のために始めた朝市で顔の見える範囲が広がった

■NPO法人南市岡すき屋根ん(南市岡地域活動協議会)

活動拠点/「南市岡会館」

約40年前より、南市岡小学校も含め地域の各団体で定例会を開催。その延長に誕生した。平成26年、NPO法人化し朝市をはじめ、児童いきいき放課後事業(受託)、多根病院と提携した健康寿命のアップ事業などさまざまな事業に着手。現在、平成31年3月より障がい者向けのグループホームを開設予定。



左から、次期理事長の富田雅志さん、副理事長の川淵信彦さん、理事長の松井信樹さん

町会ごとの避難なら、顔みしりなので安心

発災時のアクションも、合理的かつ住民の立場に立った視点から方針を明確にしています。

ポイントは、町会単位でまとまって動き、集約される点です。個人情報、町会長の手元で管理され、発災したら、町会内の各班長が安否確認を進めます。施設入所や病院へ入院した要支援者については会館に常駐している見守りコーディネータが把握しています。単位が小さいのでモレも出にくいのです。

小学校に開設される避難所でも「6年1組は、南市岡町会」というふうに町会ごとに割り振り、学校の協力もあり常に教室の入り口に掲示しています。

「津波がくるのがわかっているなら、講堂やグラウンドに集まるより、少しでも早く教室に移った方がいい。町会ごとの避難なら、顔見知りなので確認もしやすく、安心できるでしょう」

最後に、つながりづくりのコツを伺いました。「南市岡地域は、小さな地域ゆえの顔の見える関係がしっかりしており仕事や家庭環境などいろんな立場に置かれている方が混在しているからバランスがとれていて、偏見が少なく、心のキャパが大きい。それがこの町の魅力だと思います。地域に愛着を持ち、地域の人とつながりたい気持ちを持つ人がふえれば、災害が起きても安心です。顔の見える関係をいかにたくさんの中で創っていけるか鍵ですね」

少なすぎる備蓄に危機感!

南市岡地域活動協議会・理事長の松井信樹さんは、かつて防災部会長だった頃、南市岡小学校の備蓄倉庫を見に行きました。

「人口約3200人の地域に食糧についてはわずか300食しか用意がない。あまりの少なさに驚きました。備蓄は災害対策の重要な柱。豊富にあれば避難先でも安心できます。そこで備蓄品を購入するために始めたのが朝市事業です」

朝市は、平成27年の1月から、毎月第3日曜日に開催しています。産地から直接仕入れた評判の米や新鮮な野菜をはじめ、さまざまな物を販売し、大盛況です。いいものは30分で売り切れてしまうこともあるそうです。

「朝市の収益は、災害時の備蓄物資購入のために使われる」ことは TENT への張り紙で周知。「物を購入しただけで地域に貢献できる」ことも、購買意欲を刺激しているかもしれません。

朝市は、スタートから丸4年が経過。

その収益を財源にアルファ化米などの食糧や飲料水ほか、簡易トイレ10個、毛布など備蓄をますます充実させ、2つ目の倉庫も購入することができました。

朝市の思わぬ副産物とは

朝市は、物品を販売するだけでなく、お茶を飲みながら、そこに居合わせた人とのふれあえる地域交流の場を創出しています。その魅力は、出不精になっていた人も連れ出してくれたようです。「最近、見かけていない高齢の方が、久しぶりに元気な顔をみせてくれホッとしました」とは副理事長の川淵信彦さん。

また、「できることはあれば」と手を挙げる人が増えたのも、朝市の思わぬ収穫です。早朝からテントを組み立てる男性陣、前日に値決めをする女性陣、モーニングに添えるケーキやお菓子を作ってくれる人、かわいい雑貨をつくって販売する人、買い物に来た人に品物を勧め、カゴに入れてあげる人、宣伝カーで地域を巡回する人、レジを担当する現役の郵便局長など。自分らしい関わりの機会がまんべんなく用意された朝市には、40人を超えるスタッフが携わっています。

「予想外の展開でした。こちらから何かお願いしたことはありません。それぞれの持ち場で楽しく活動できているのは、地域への思いが皆の心のなかにあるからではないかな」と松井さんは嬉しそうに話します。





施設の取り組み 特別養護老人ホーム大正園

防災意識の習慣化で、発災時パニックを防ぐ



左から施設長の飯田宏彦さん、防災担当の
穂西将哉さん

■泉尾特別養護老人ホーム 大正園(大正区)

昭和62年開設。入居定員100名。「第二大正園」、軽費老人ホームの「つつじ荘」、障害者支援施設の「北村園」、障害者支援施設の「ふくろうの杜」、「泉尾訪問看護ステーション」
「済生会泉尾病院」など関連病院・施設と連携しながら、地域福祉に貢献。

員が日常業務として認識しているから
かもしれません」。また、訓練の頻度について
防災担当の穂西将哉さんは「職員
の入れ替わりを考えると、月1回実施
して何とか維持できています」と話して
くれました。

防災訓練を日常業務に!

大正園では、毎月第2水曜日の14時から1時間かけて、全員参加の防災訓練を実施しています。メインは、夜間の火災を想定した救護のシミュレーション。入所者のフロアから出火し、夜勤者6名が手分けして通報、避難誘導、救護にあたります。このとき、この6名に一人ずつ職員がつき、6名が「どんな行動をとったか」をチェックします。残りの職員は「1人で歩ける人」「寝たきりの人」「車いすの人」と3タイプの利用者に扮して園内のさまざまな場所に配置されており状況に応じた避難誘導を行います。訓練終了後の反省会で、チェックを担当した職員から客観的な意見を聞きます。このようにして職員全員で質の高い救護活動を目指しています。その他、大地震の津波を想定し入所者を2階から3階へ移動させる訓練や、消火器、非常通報装置など、防災にかかわる器具の使い方を学ぶ訓練などがあり、総合的な知識や技術が身につくようになっていきます。

施設長の飯田宏彦さんは防災訓練についてこう話します。

「消防訓練の立合いに来られた消防署の方は、真剣な表情で取り組む職員に驚かれますね。訓練は20年以上続いています
が形骸化しないのは、毎月の勤務表に最初から組み込んでおり、職

停電時も、落ち着いて対処

昨年6月の大阪府北部地震時のエレベータの停止時も、9月の台風21号による停電・断水した時も、利用者、職員ともにパニックになることは一切ありませんでした。停電に対しては、蓄電池・自家発電・ランタンの活用とともに、渡り廊下で直結しており停電しなかった済生会泉尾病院から電源を借りました。また、断水によるトイレの問題は、3階の風呂の湯を使い手動式へ切り替えました。停電により空調が止まっていたため、体力が落ちている入所者については、病院の透析室を借り帰宅困難となった職員とともに一晩宿泊しました。併設のデイサービス事業所では、業務を3日間ストップし、居宅介護支援事業においては、ケアマネジャーが担当の利用者宅に向き安否確認を行うほか、断水している家には備蓄用の水・軽食を届けました。これら一連のスムーズな動きは、日頃の防災訓練が身につけているからにほかなりませ



見る人を元気にする明るい外観

ん。今後の課題は、「職員同士の連絡網。グループLINEは既読がつくので安否確認になり便利ですが、個人情報明らかになるのがネック。」と飯田さん。

地域の防災訓練に毎年参加

発災時には、区の災害対策本部からの指令で、大正園は、高齢者を対象に緊急に入所介護・療養等が必要な要支援者を収容する「緊急入所施設」になります。北恩加島地域を中心に支援の必要な高齢者が集まることが予測されます。「空いているベッドを使ってもらい、足りない場合は簡易ベッドを、スペースが足りなくなったら廊下を使用して対処するつもりです。食糧は常時、入所者ひとりあたり1日2食×7日間＝14食分を飲料水とともに倉庫に保管しているので、もし、当園が被害を受けていなければ、地域の困っている人に回すこともできます。マンパワーは園に集まった職員で役割分担するしかありません。より大規模な災害の場合はDCAT(※)を利用して、全国の済生会から物的、人的支援を受ける用意があります」と飯田施設長。

北恩加島地域の防災訓練に地域の社会福祉施設として参加し、同法人が運営する障害者支援施設(ふくろうの杜)に福祉避難所等を設営しました。大阪市と大正区の担当者、および地域住民、社会福祉施設が、災害に向けてともに取り組む貴重な機会です。

※DCAT(Disaster Care Assistance Team)とは

済生会が独自に組織化した災害派遣福祉チーム。職員で編成され、大規模災害等で施設・職員が被災し、十分に運営ができない場合、被災地へ、人的・物的な支援を行う。(済生会HPより)



日頃のつながりがあったこそ

武庫川女子大学文学部 心理・社会福祉学科 講師 増田 和highさん



くに大規模災害では、避難対象外の近隣住民が、福祉避難所に助けを求めてくる可能性があります。災害時はどのような方針で福祉避難所を運営するか、地域に周知しておけば混乱を防げるでしょう。「ここなら大丈夫、入れてもらえらる」と思い避難しようとしたのに受け入れられず、たらいまわしに遭うことだけは、被災者にとって二次的な負担になるので避けたいものです。

「行政+専門職+地域」で考える

若者が減り、高齢者が増える人口動態をみれば、今後、支援を必要とする人の割合が増えていくことは一目瞭然であり、専門職不足から支援が手薄になる恐れがあります。そのためにも「共助」は必要不可欠です。さらに言えば、今後のことを見据えて行政、専門職、地域が一体となったネットワーク構築が必要となってきます。

東日本大震災の時は、「要支援者」の情報共有がネックでした。専門職の人たちからは「取りこぼしがないよう「要支援者」を網羅的に把握したい。発災当時だけでなく、その後の避難先まで知りたいが、自治体からの情報開示がない」という声が多く聞かれました。行政は広範的な情報の収集・集約機能に長けています。一方で個別性の高い個々のニーズ把握は各専門職が範疇とするところであり、地域における即時性のある対応は地域住民の力が不可欠です。災害が起きたときこれらの要素が有機的に機能するように、日頃から行政、専門職、地域が協議・連携を行い、協働体制を構築していくことが今後さらにもとめられてくるでしょう。

創出しながら、防災・減災に活かせるつながりをメンテナンスしていきます。

災害弱者を守るために

高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児、病弱者など、避難時や避難所生活において配慮や支援を必要とする「災害弱者」の人たちは、平時の「要支援者」そのものです。もつとえば、災害が起きると、被害を受けやすく支障が生じやすい人たちです。どうすれば、彼らを災害から守ることができるでしょうか。災害が起きて初めて、近所に「要支援者」が住んでいたことに気づいたのでは手遅れになるかもしれません。

平時の「要支援者」が災害時の「災害弱者」になることが分かっているなら、平時から、「要支援者」を地域社会に結び付け、地域社会で包み込むようにしておいたほうがいいでしょう。もし、普段から「要支援者」と顔見知りで、声をかけられる関係が築かれていれば、発災時、いち早く助けにいくことができます。実際に、東日本大震災時には、在宅で酸素吸入を使用している高齢者を日ごろから付き合ひのある若い消防団員が自宅にかけつけ、酸素供給装置とともに避難所へ誘導したといった事例もありました。

福祉避難所の判断基準は明確に

「災害弱者」を対象とした避難所には、入院や入所の必要がないまでも、一般的な避難所では生活に支障をきたす人たちのために特別な配慮がある「福祉避難所」、そして、自宅や避難所で生活できない「要保護者」のうち緊急的に入所介護や療養が必要な人を対象にした「緊急入所施設」があります。

福祉避難所に指定された福祉施設は、避難者の数や周囲の社会資源を想定し、あらかじめ避難者を受け入れる判断基準を持つておくことが重要です。と

助け・助けられるつながりづくり

東日本大震災をはじめ、昨年の大阪府北部地震、台風21号など自然災害が続くなか、大阪市においても、防災は常に地域課題の上位を占めており、各地域で防災訓練や防災に関するイベントが行われるようになりました。しかし、その頻度は年に1~2回。これでは、防災の知識も参加者同士のつながりも薄れてしまうのではないのでしょうか。

阪神大震災が起きたとき、生き埋めになり救助された人の多くが「共助」、すなわち近隣住民から助けられていた事実は周知のとおりです。一般的に、防災活動といえば、避難訓練がイメージされがちですが、こうした被災時の「助け・助けられるつながり」とは、年に1~2回の避難訓練からではなく、多くは日頃からの取組みの中で生まれたものです。いざというときに助け合える関係をつくりだすためには、防災活動を地域でつながりをつくる機運と考へ、次の活動に発展させ、関係を構築し続けることが大切です。

つながりはメンテナンスが欠かせない

防災活動で発生したつながりを育てていくには「つながりのメンテナンス」が重要です。1回だけの防災訓練などで、その後、顔を合わせる機会がなければ、つながりは自然に解体されてしまいます。そのため、活動を継続的にに行い、つながりを再認識してもらうためのテコ入れが必要なのです。

その際には防災以外のテーマに結び付けて活動を展開していくことも有効です。例えば、防災活動を介してできたつながりをもとに、地域における高齢者の見守り活動や障がい者への声掛け活動、認知症に対する学び合ひなどを行えば、「災害弱者」への対応にも応用できます。ほどよい頻度とともに活動できる機会を

講座案内

●市民向け講座 市内在住、在勤、在学の方

講座名	日時	受講決定	講師	内容	その他
【介護実習講座】 介護実習講座 入門コース	①2月12日(火) ②2月19日(火) ③2月26日(火) いずれも 10:00～12:30	開講日の約1週間前 に受講証をお送りし ます	専門学校講師、訪問指 導員など	初めて介護をされる方に、家庭での介護の 知識や技術をご体験いただき、介護への関 心や理解を深めるコースです。 【テーマ】 ①移動 ②食事介助・衣服交換 ③清潔介護	定員:各テーマ20人 (先着順) 希望される方は、お 問合せください 受講料:500円 (資料代) 受講当日に現金で 申し受けます
【社会福祉中の市民講座】 非行少年と施設の 歴史	2月23日(土) 14:00～16:00	大阪市内在住・在勤・ 在学者	鈴鹿医療科学大学 教授 藤原 正範	大阪は、非行の子どもに罰でなく教育と支 援によるはたらきかけを行うという思想と 実践の先進地でした。大阪府立修徳学院、 児童養護施設武田塾の歴史を中心にお話 します。	定員:50人(先着) 締切:2月12日(火) 受講料:無料 申込:FAX・郵送・持 参・電話
【社会福祉中の市民講座】 室戸台風と 罹災救助について	3月2日(土) 14:00～16:00	大阪市内在住・在勤・ 在学者	追手門学院大学 准教授 古川 隆司	昭和9年の室戸台風後に実施された罹災 者救助をとりあげ、被災者の個別支援と ソーシャルワークについて考えたいと思い ます。大阪の歴史に興味がある方、防災に ついて興味のある方に特にオススメの講 座です!!	定員:50人(先着) 締切:2月19日(火) 受講料:無料 申込:FAX・郵送・持 参・電話

◆市民向け講座の申込み方法◆

ハガキ・FAX・メールに次の必要事項を記入して、お申し込みください(当センターホームページや電話での申込みも受け付けます)
 [必要事項] ①講座名 ②名前(ふりがな) ③郵便番号・住所 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥大阪市在住でない場合は、勤務先または学校名と所在地
 介護実習講座を申込みの方は⑦介護経験の有無(有の人は年数も記入)

●福祉従事者向け研修 申し込み多数の場合は抽選です。締め切り後に、事業所あてに決定通知を送付します。

研修名	日時	受講対象者	講師	内容	その他
【組織運営管理研修】 職場研修推進研修	2月28日(木) 9:30～12:30	大阪市内の社会福 祉関係施設・事業所 に従事する方	関西福祉科学大学 大学院 教授 津田 耕一	職場研修の重要性を認識し、研修のニー ズを把握することや、職場研修の仕組みを 理解することを目指します。	定員:30人 締切:2月1日(金) 受講料:1,500円+ テキスト1,000円
OJT推進研修	2月28日(木) 3月1日(金) いずれも、 9:30～17:00			OJTの重要性と推進体制を理解し、効果的な 指導方法を学びます。	定員:45人 締切:2月1日(金) 受講料:6,000円+ テキスト1,000円
【高齢者福祉関係研修】 高齢者ケアに必要な 医療知識	3月5日(火) 14:30～16:30	大阪市内の高齢者 福祉関係施設・事業 所に従事する方	大阪府医師会 介護・高齢福祉委員会 委員 辻クリニック 院長 辻 正純	基本的な医療知識を学び、利用者一人ひ とりの疾患について理解し、病識を持った ケアのあり方について学びます。	定員:50人 締切:2月18日(月) 受講料:1,500円
【福祉書写研修】 よこいと座談会 (管理職員対象)	3月1日(金) 18:30～20:30	大阪市内の社会福 祉施設・事業所に勤 務する管理職に就い ている方	関西福祉科学大学 大学院 教授 津田 耕一	実践!管理職・リーダーのための～チーム の成果とメンバーの成長を両立させるマ ネジメント～	定員:30人 締切:2月22日(金) 受講料:無料

※日程及び締切日は、主催者の都合で変更する場合があります。

◆福祉従事者向け研修の申込み方法◆当センターのホームページから申込み、申込用紙をダウンロードしてFAXでお申込みください

上記の会場・申込・問合せ先 大阪市社会福祉研修・情報センター 〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20
 ☎06-4392-8201 ☎06-4392-8272 🌐http://www.wel-osaka.jp ✉kensyu@shakyo-osaka.jp

大阪市立総合医療センター 第3回慢性腎臓病(CKD)セミナー

内容/【ミニレクチャー】 ①腎臓の一生 腎臓・高血圧内科 医長 一居 充
 ②腎臓と薬の関係!!～なぜこの薬を使うの?～ 薬剤師 橋下 寛樹
【CKD相談会】 医師・看護師・栄養士・薬剤師等による相談ブースあり
 司会 腎臓・高血圧内科 部長 小西 啓夫

日時/2月16日(土)午後1時～午後3時(開場12:30～)

場所/大阪市立総合医療センター 3階 さくらホール 大阪市都島区都島本通2-13-22

対象/どなたでも 定員/250名(先着順) 受講料/無料 申込方法/当日会場

問合せ先/地域医療連携センター(担当:藤本)

☎06-6929-1221 ☎06-6929-0886 ※問い合わせ可能日、可能時間(平日:午前8時45分～午後5時15分)
 🌐http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/about/shiminkouza.html

これぞ“大阪の底力”

市民後見人と意思決定支援

～“自分で決める”を支える～

日時

2月11日(月・祝)

午後1時30分～4時30分

場所

阿倍野区民センター 小ホール

阿倍野区阿倍野筋4-19-118

申込方法 / 「シンポジウム参加希望」と名前、所属・団体名、電話番号を記載のうえ、FAX・ハガキ・Eメールによりお申し込みください。

申込締切 / 2月6日(水) 当日消印有効



第1部 / 基調講演

成年後見制度における意思決定支援

新潟大学法学部 教授 上山 泰氏

第2部 / パネルディスカッション

これぞ“大阪の底力”

市民後見人と意思決定支援

～“自分で決める”を支える～

大阪市成年後見支援センター

☎06-4392-8282 ☎06-4392-8900 ✉yousei@shakyo-osaka.jp

🌐 <http://www.wel-osaka.jp/kouken/index.php>

第61回 大阪市立弘済院附属病院 市民公開講座

テーマ / 高齢者脊椎疾患(せぼねのびょうき)を知っておくために

内容 / 健康長寿のために、高齢者脊椎疾患(せぼねのびょうき)について専門医から学んでいただけます。

講師 / 大阪市立大学大学院医学研究科整形外科学 教授 中村 博亮 氏

日時 / 2月21日(木) 午後2時～午後3時(受付 午後1時30分～)

場所 / 大阪市立弘済院寿楽館 〒565-0874 吹田市古江台6-2-1 (阪急千里線・大阪モノレール 山田駅より徒歩8分)

定員 / 90名(先着順) **受講料** / 無料 **その他** / 看護・介護・栄養等の相談・展示コーナー併設

締切 / 2月18日(月) 消印有効

申込方法 / 電話・ファックス・メール・はがき・病院窓口

ファックス・メール・はがきの必要記載事項「公開講座参加希望」、代表者氏名(ふりがな)・住所・電話番号、参加希望人数 ※定員を超えた場合のみ連絡

問合せ先 / 大阪市立弘済院附属病院 患者支援部(担当:高橋(管理課))

☎06-6871-8013 ☎06-4863-5351 ✉kousaiin-kouza@city.osaka.lg.jp

※月～金(祝日を除く)午前9時～午後5時30分

第5回 大阪市民健康塾

大阪市アルコール関連問題ネットワークグループ

内容 / **講演①** 『飲酒問題を抱える家庭で起こっている事』家族関係について学び、今後の対応を考えていく
精神保健福祉士・臨床心理士 佐古 恵利子 氏

講演② 当事者からの体験談 ～本人・家族～

日時 / 2月26日(火) 午後1時55分～午後4時30分(13:30 受付開始)

場所 / 大阪市長居障がい者スポーツセンター 会議室 大阪市東住吉区長居公園1-32

定員 / 80名(先着順) **受講料** / 無料

締切 / 2月12日(火)

申込方法 / 氏名・電話番号・FAX番号を記載のうえ、FAXでお申し込みください

申し込み先 / 大阪市断酒連合会 ☎06-6485-3707

問合せ先 / 大阪市こころの健康センター ☎06-6922-8520(担当:井阪)

社会福祉思想の先導者・大塩平八郎

—森鷗外歴史小説『大塩平八郎』の言説に関連して—④

樟蔭東女子短期大学名誉教授文学博士 森田 康夫

本稿は四話完結の第4話です。

大塩の思想は、近代にどのような影響を与えたのでしょうか。大塩事件において大阪三郷(北組・南組・天満組)の豪商らは、みな焼き討ちにあいました。大坂の豪商が幕府に肩入れしすぎたのがその原因でした。豪商たちは、江戸からの天下り役人に金の無心を受けると、毎月お金を出しあい、天下り役人への政治献金として幕府も禁じた不正な無尽(大坂では、頼母子講と呼ばれる庶民金融)を立ち上げ、株仲間などの商業的特権を維持するために天下り役人に取り入りました。

その手口を知っていた大塩は、事件直前に江戸幕府の幕閣宛に幕閣関係者たちの不正無尽を告発しました。その冒頭にはかつて『洗心洞割記』まで贈って信頼を寄せていた宮津藩主 松平伯耆守に関係する書類などがありました。

ところが事件の発生により大坂で書類を検分した役人から、江戸につくとすぐそのまま大坂に返送するよう手配され、未開封のまま返送されようとしていました。この時、荷物を託された渡り人足の清蔵が、金目の物を抜き取ろうとして開封しましたが、書類ばかりだったので三島の宿周辺で捨てられました。そのため大坂には返送されませんでした。

捨てられた書類は葦田代官の領内であったので、江川太郎左衛門のところへ届けられました。太郎左衛門はこれを見て「江戸に届けられたら大変なことになる」と考え、握りつぶしました。そしてこの文書の存在が知られるようになったのは、なんと1984年(昭和59)のことでした。大塩の乱が大阪周辺の事件ではなく、幕閣を巻き込む重大事件としてあったことが明らかになりました。

幕府は大塩事件に関係した人物を一人残らず厳罰に処しました。そして大塩に対しては徹底的に誹謗中傷を加えました。それはこのまま放っておくと、大塩が反幕の英雄になることを恐れたためです。例えば、水戸藩の藤田東湖が記した『浪華騒憂紀事』のなかに「大坂市中では殊の外、平八郎を貴んでいます。

甚だしいことには家を焼かれた者までが、少しも平八郎を恨まず、ましてや大坂の下層民までもが大塩様と尊敬しています。幕府が大塩一党を逮捕するために、銀百枚を懸賞金として出しましたが、大坂の町人たちはたとえ銀百枚が、千枚になろうと大塩さんを訴えることはできない」ときっぱり言っていると伝えていました。

大塩があれだけの大事件を引き起こしたにもかかわらず、大坂の町人はもとより、家を焼かれた豪商たちからも一目おかれていたのです。住友家の前身である泉屋は、そのころ銀山の経営をはじめ、大坂市中において借家366軒も所持する大家主でした。天保6~7年の飢饉の時、大塩の頼みをきかず、東町奉行の跡部山城守(水野忠邦の弟)の圧力に屈して、義捐金を拒否したために大塩の乱で焼き打ちにされてしまいました。

その泉屋が大塩の乱後の天保8年3月、泉屋復興のために企業内で儉約令が出されました。その後、大坂市中の罹災者や泉屋が旧大和川筋の新田開発主として開いた、河内の山本新田の困窮百姓達に対して救済の手をさしのべました。

さらに天保10年、泉屋の支配人源兵衛がこの度の事件を反省して、江戸から天下ってきた官僚や、あるいは大坂に蔵屋敷を構える諸藩の役人たちとの付き合い方を、自分の経験をもとにして意見書を書きました。それによると「近頃の大坂勤めの役人は癖が悪く、お金を借りても返さない。手紙にはうまいこと書き、義理・人情をからませる。しかし武士が商人に手紙を送るときは気をつけることが肝心で、これは大金を商人から巻き上げる工夫のひとつである。表では諷で商人を接待して懇意を結ぶが、武士の心のなかはお金が手にいれれば知らん顔で薄情なものである」およそこのように述べられ、泉屋当主を筆頭に、武士との付き合いはくれぐれも注意する必要があるとするものでした。

そこで泉屋としてもこの機会に家政改革が行われました。この時書かれた『垂裕明鑑』において大塩騒動のことが長文にわたり記録されていました。家を焼かれ散々な目に遭ったはずの泉屋が、大塩事件については松浦静山の『甲子夜話』のような上からの目線で排斥するのではなく、現地にあるものとして実に冷静な分析がなされていました。

それによりますと「この年(天保8年)天下は氣候が悪く、物価が高騰し、貧困の民は生活に困ったが、大坂市中の豪商は、彼らを救う気持ちがなく、自分たちは新町に行って芸者を上げ、ぜいたくをした。また大坂城代から奉行所までもが、なんの策も立てなかった。」と正直に事件直前の状況が述べられていました。

「そこで平八郎が意を決して大坂を起こしました。主として天下り役人と豪商に狙いを定め、金と米を奪い上げ貧民に分け与えました」ここで塩賊平八郎とか逆賊平八郎などは書かず、平八郎という通名で表記されていました。

ところで「大事を挙ぐ」とは「大事件を起こした」という意味と「世の中に大きな警鐘を發した」という二つの意味があります。

泉屋が事態を冷静に受け止められなければならないのは、大坂は町人が主人公の町で、徳川幕府が直接治めているのでもなく、また大名の領国でもない自覚がそうさせたものと考えられます。大坂の町の責任をとるのは、形式的には大坂城代ですが、所詮は幕府の任命で派遣された役人・官僚です。東西奉行所役人も天下り官僚です。

天下り役人は商習慣によって張り巡らされた慣習を追認することで、大坂でできるだけ蓄財して江戸に帰り、将来の栄達をはかることが天下り役人の心得でした。それ故、大坂の町の実質的な頂点に立つものは富豪たち

でした。富豪としてのあるべき自覚をもたなければ、大坂は成り立ちません。その自覚が欠けていたことが『垂裕明鑑』で指摘されていたのです。

近代になり大阪の心ある富豪は小河繁次郎が提起した方面委員制度(現在の民生委員制度の創出者)に協力し、地域福祉、公共福祉のための必要な資金援助を惜しみませんでした。

なんといっても大塩はこの時代の大坂を代表する司法官僚でした。警察官のトップでした。同様に近代大阪の福祉を支えたのも警察関係者でした。

警察官と云えば明治末年の大逆事件や昭和の15年戦中*などで、関係のない者まで逮捕して拷問を加えるなどの負の印象を与えてきましたが、近代大阪の警察官僚は大塩事件を契機に、大塩に味方した与力・同心はもとより、大塩の捕縛にあった者も、大塩事件は起こるべくして起こった事件として理解し、大阪の治安に責任を持つ者として、その背後にある社会的弱者の動向に心を寄せていたようです。

大阪警察保安課長であった中村三徳をはじめ、池上大阪市長も警察官出身で、大阪の都市事情に通じるなかで社会福祉の必要性については身をもってその解決に当たった人でした。

天保元年生まれの万吉は、父親に見捨てられた母親への孝行のために、やくざの世界に飛び込み、押しも押されぬ侠客になり、やがて米相場で得た財を亡き母に変わり貧民救済のために投じました。侠客小林佐兵衛が設立した小林授産場は稀有な事業でしたが、ここにも大塩事件と大塩思想の仁愛の心が佐兵衛を突き動かさせたことは間違いありません。

もちろん大阪の近代社会福祉に果たした女性の役割も無視することはできません。このような様々な善意の結集が、近代大阪を社会福祉の先進地域にしてきました。そしてその背景に大塩平八郎の全存在がありました。大塩によって社会福祉の種がまかれたという意味で、大塩平八郎を「社会福祉の先導者」と位置づけることができます。

最後になりましたが大塩平八郎は事件当初から逆賊・塩賊としてその人格にまで及んで非難・中傷されてきました。しかし大塩事件から明治維新が始動したことを思う時、その成功者の西郷隆盛もまた大塩思想を継承する陽明学の体得者でした。しかしこの西郷も西南戦争で逆賊の汚名を受けましたが、西郷の功績は歴史から抹殺を許しませんでした。それに比べて平八郎は体制からの逆賊視され、いままって大塩テロリストをとらえる近代の批評家を許してきました。しかし近代大阪の福祉の先進性を切り拓いた大塩こそ、鷗外の描く大塩象と天保8年の歴史的現実を歪曲する人物論を克服するものといえます。

*満州事変から太平洋戦争終結まで

図書・資料閲覧室からのお知らせ

図書・DVD新着情報



図書紹介

『介護がわかる マンガで介護・看護・医療の知識が身につく!』

医療情報科学研究所 編集
メディックメディア 2018年

マンガを通して、介護をゼロから学べる入門書。1巻は「介護保険のしくみ」、2巻は「生活を支える制度」をわかりやすく紹介する。



『ルポ西成 七十八日間ドヤ街生活』

國友公司 著 彩図社 2018年

「日本最大の西成のドヤ街。そこにはこんな情景があった」著者自らが西成区あいりん地区に住み、さまざまな人と出会った体験を綴ったルポルタージュ。



『ステップファミリーのきほんをまなぶ 離婚・再婚と子どもたち』

SAJ 編 ほか 金剛出版 2018年

実親・継親・子どもたちすべてが幸せになるために。ステップファミリーの基本知識をQ&Aやマンガを使ってわかりやすく紹介する。

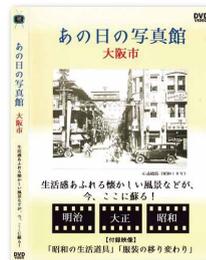


DVD紹介

『あの日の写真館 大阪市』

BBB 30分 2017年

大阪府大阪市の昭和17年までの、懐かしい風景などの画像を、音楽にのせて収録したDVD。生活感があふれる懐かしい風景などが楽しめる。



『アニメで見る 高齢者介護の自殺・心中予防』

丸善出版 25分 2015年

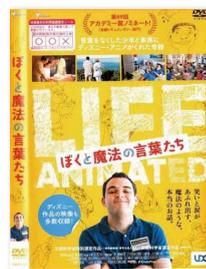
高齢者介護にまつわる自殺や心中、それぞれの事例を紹介し、その予兆や、状況への介入方法の例を具体的に紹介したDVD。



『ぼくと魔法の言葉たち』

トランスフォーマー 91分 2018年

2歳で言葉が出なくなった自閉症の少年。話さなくなった彼が、ディズニーアニメを通じて少しずつ家族と会話するようになり、やがて自立するまでの過程を追ったドキュメンタリー映画。



図書・資料閲覧室 休室のお知らせ

図書・資料閲覧室は、書籍・資料などの蔵書点検のため、**2月22日(金)～2月28日(木)**まで休室します。ご利用の皆様には、ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

※返却のみ、1階・事務所にて、平日は午前9時～午後9時まで、土日は午前9時～午後5時まで受け付けます。



大阪市社会福祉研修・情報センター2階にある「図書・資料閲覧室」では、社会福祉に関する書籍などを無料で貸し出しています(認知症、介護技術、手話のDVDや、福祉の関係の雑誌などが充実しています。)



●図書・約17,000冊 ●DVD・約910本 ●雑誌・約27種類

開室時間/月曜日～土曜日(祝日、年末年始は除く)午前9時30分～午後5時

貸出期間/2週間(図書・雑誌等は5冊、DVD・ビデオは5本まで)

利用資格/貸出し期間(2週間)内に、来館しての返却が可能な方

※郵送での返却はできません

※初回の登録時には、住所・名前などの証明ができる本人確認書類(免許証・保険証など)をご持参ください

問合せ先/ ☎06-4392-8233 お電話で図書・DVDの予約も承ります



大阪市で実施する「こころの健康」に関する相談事業のご案内

大阪市在住の方を対象に、次のような相談事業を行っています。ひとりで悩まず、ご相談ください。

大阪市こころの健康センター

■こころの悩み電話相談 専用電話 ▶ ☎06-6923-0936

専門の相談員が、気分の落ち込みや不安など、こころの健康に関する相談をお受けします。
*月～金曜日の9時30分～17時(土・日曜日、祝日、年末年始を除く)

■自死遺族相談(予約制) 予約電話 ▶ ☎06-6922-8520

大切な人を自死で亡くされた方を対象に、臨床心理士が面接によりお話を伺います。
*月～金曜日の9時～17時30分(土・日曜日、祝日、年末年始を除く)

■ひきこもり電話相談 専用電話 ▶ ☎06-6923-0090

ひきこもりに関することで悩んでおられるご本人やご家族等からの相談をお受けします。
(電話相談後、必要に応じて面接や訪問を行います。)
*月～金曜日の10時～12時(土・日曜日、祝日、年末年始を除く)

■思春期問題相談(予約制)

不登校、人目を気にして外出を嫌がるなど、思春期特有の問題について悩んでおられるご本人やご家族等を対象に、精神科医師等が相談(助言)をお受けします。
お住いの区保健福祉センターを通じて、相談の予約を受け付けています。

■依存症に関する相談

～依存症相談員による相談～ 相談電話 ▶ ☎06-6922-8520

アルコール、薬物、ギャンブルなどの問題について悩んでおられるご本人やご家族、関係機関の支援者の方等を対象に、依存症に関する相談をお受けします。
*月～金曜日の9時～17時30分(土・日曜日、祝日、年末年始を除く)

～依存症専門相談(予約制)～ 予約電話 ▶ ☎06-6922-8520

アルコール、薬物、ギャンブルなどの問題について悩んでおられるご本人やご家族、関係機関の支援者の方等を対象に、精神科医師等が相談(助言)をお受けします。
*月～金曜日の9時～17時30分(土・日曜日、祝日、年末年始を除く)
お住いの区保健福祉センターを通じて、相談の予約を受け付けています。

(お問い合わせ) 大阪市こころの健康センター

大阪市都島区中野町5-15-21 都島センタービル3階
☎06-6922-8520



今月の自助具

資料提供 特定非営利活動法人 自助具の部屋

ペンホルダー(左利き用)

主な適応疾患・対象者 ▶

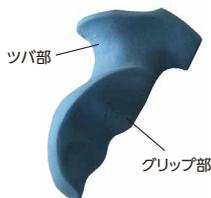
- ふるえやしびれ等で、指先に力が入らず筆記具をしっかりと握って書くことができない方。

機能・特徴 ▶

- ボールペンを固定したシリコン樹脂製のホルダーを軽く握るだけで、安定した状態で文字を書くことができる。
- ホルダーのグリップ部は、握り手の形状を粘土で型取りしたものなので、しっかりと握らなくても安定した固定感が得られる。

使い方 ▶

- ボールペンなどの筆記具をホルダーの筒状の穴に差し込み固定する。
- 傘状のツバ部を親指と人差し指の間に挟み込み、グリップ部を握って使用する。



問合せ ▶ 特定非営利活動法人 自助具の部屋

☎06-6777-6844 (月・水・金 10:00～15:00)

NPO自助具の部屋ホームページ ▶



健康生活 応援グッズ

安全・快適に用をたすために

ポータブルトイレの汚物処理とニオイの問題を解決



●家具調トイレ セレクトR 自動ラップ

ワンタッチ操作で排泄物をラップできるので、バケツを洗う必要がありません。防臭効果のあるフィルムで排泄物を密封し、ニオイが部屋に広がるのを防ぎます。

セーフティロックが排泄時の安心を届けます



●さわやかチェアPT セーフティロック

肘掛けがそのまま前方への転倒防止グリップとなり、排泄時の前傾姿勢を安定してとれます。前傾姿勢をとることで排泄しやすくなります。

ベーシックタイプ 便利機能を装備した



●家具調トイレ(座楽) ベーシック

洗いやすい丸いバケツや選べる便座、座面前後傾調整など、多彩な機能を搭載したベーシックなタイプのポータブルトイレです。

問合せ

公益社団法人関西シルバーサービス協会 事務局
〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54

大阪社会福祉指導センター内

☎06-6762-7895 ☎06-6762-7894

http://kansil.jp

12月1日(土)に、当センターで、 介護・福祉情報の啓発イベント 「ウェルおおさか はーと♥フェア」を 開催しました!

「ウェルおおさか はーと♥フェア」は当センターで、福祉や介護の啓発を目的として年1回開催しています。会場内は大いに盛り上がり、のべ590人の方にご来場いただきました。

午前11時にスタートし、1階エントランスホールのオープニングステージでは、ボランティアグループによるトーンチャイムや障がい当事者によるトランペットの演奏が響きわたっていました。また西成区のイメージキャラクター、「スーパーポンポコジャガピーにしなりくん」も登場し、子どもも大人も大喜びでした。

展示コーナーでは、高齢者・障がい者作成の作品や近所の保育園の子どもたちが描いたさつまいもの絵には、とてもほっこりしました。

「高齢者にやさしい食事講座」では、あぶ玉煮など高齢者の方が食べやすいような調理方法を学ぶことができました。

午後からは、福祉・介護のすてきなエピソードを集めた



「みおつくし福祉・介護の仕事きらめき大賞」表彰式や介護の仕事を取りあげた映画「ケアニン」の上映会は心があたまるものでした。

「子育て世代の就活応援セミナー」は、子育て中のママが参加され、福祉現場で働く先輩ママのお話を熱心に聞かれており、また、おもちゃ図書館、保育コーナーでは子どもたちが楽しそうに遊んでいました。スタンプラリーでは、スタンプを探しに館内をまわっている親子づれの方も多くみられました。

様々な催しが行われ、今年も笑顔あふれる、たくさんの「はーと♥」がつまったイベントとなりました。ご来場ありがとうございました。



そっと、さっと、あんしんを

サービス介助士

無料 説明会のお知らせ

おかげさまでサービス介助士16万人突破!



「おもてなしの心」と「介助技術」の普及を目指したこの資格は、多くの支持をいただき、2018年12月には資格取得者数が累計16万人を超え、広く全国で活躍されています。

●説明会開催日	サービス介助士	防災介助士	認知症介助士
2月18日(月)	15:30~17:00	17:00~18:00	適宜
3月11日(月)	15:30~17:00	17:00~18:00	適宜
4月15日(月)	15:30~17:00	17:00~18:00	適宜

説明会では、サービス介助士について詳しく説明いたします。また、あわせて「防災介助士」「認知症介助士」についても説明いたしますので、個人はもちろん、サービス介助士導入をご検討中の企業・学校ご担当者様の参加もお待ちしております。



●説明会開催場所・お問い合わせ

公益財団法人
日本ケアフィット共育機構 大阪事務所
〒542-0083 大阪府大阪市中央区東心斎橋1-7-30
☎06-6251-6101 ☎06-6251-6102 🌐https://www.carefit.org/

(広告)

大阪市社会福祉研修・情報センター

福祉職員のメンタルヘルス相談

ひとりで悩まずに
まずはお電話を



相談・予約電話

ハローサンキュー

06-4392-8639

☑k-kanri@shakyo-osaka.jp

予約方法 上記番号へお電話ください。

平日 9時30分~21時 土・日 9時30分~17時

お気軽にご相談ください。秘密厳守

疲れやすい、やる気が出ない、眠れない、対人関係がうまくいかない...など、仕事上のストレスなどから生じる**悩み**の相談窓口です。ご本人だけでなく、同じ職場の上司や同僚の方から相談いただくこともできます。

●対象

大阪市内在住又は市内にお勤めしている福祉職員

●相談方法/電話または来所(まずは、ご予約ください)

●相談日時/毎週土曜日と第1・3水曜日

土曜日の場合、祝日も実施(年末年始は休み)いずれも午前9時30分~午後4時

●相談員/臨床心理士 ●相談料/相談無料

来所による相談に加え、大阪市内の社会福祉施設への福祉職員対象のメンタルヘルスに関する出張研修を始めました。(追加で個別相談も可能)

センターにご相談ください。☎06-4392-8201

CENTER INFORMATION

大阪市社会福祉研修・ 情報センターのご案内

開館時間／午前9時から午後9時まで(土・日曜日は午前9時から午後5時まで)

図書・資料閲覧室は午前9時30分から午後5時まで(月～土曜日)

休館日／国民の祝日(土・日曜日と重なる場合は除く)、年末年始(12月29日～翌1月3日)

項目	直通電話番号	お問合せ時間
会議室など利用の問合せ	06-4392-8200	午前9時～午後9時(土・日曜日は午後5時まで) (会議室の申込・お支払いは午前9時30分～午後5時)
研修関係の問合せ	06-4392-8201	午前9時～午後5時
図書・資料閲覧室の問合せ	06-4392-8233	午前9時～午後5時

貸室ご利用の皆様へ

1 空室状況をホームページに掲載しています。

空室状況は、ホームページの「貸室のご案内」→「空室一覧」に、PDFで6か月分掲載。

ウェルおおさか

2 利用申込の受付は6か月前からです。

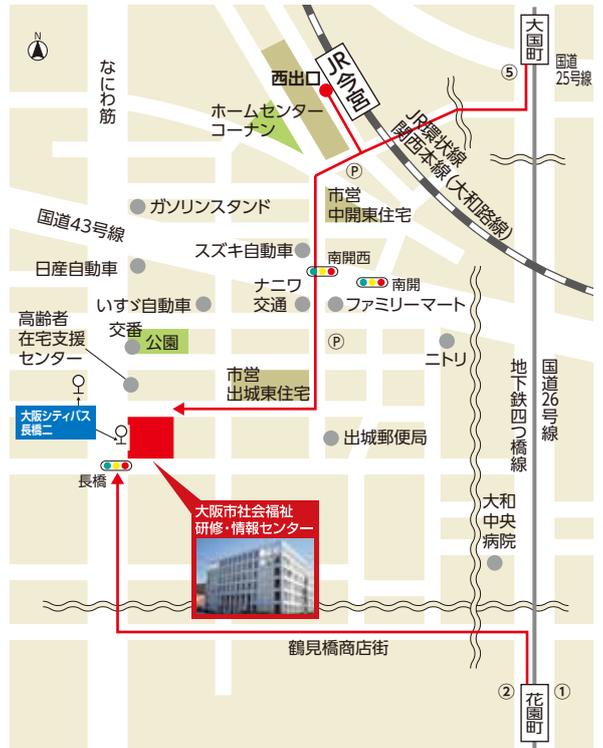
利用日の6か月前(6か月前の同じ日)から、電話や窓口で予約いただいたうえ、所定の用紙で申し込みください。

受付時間は午前9時30分から午後5時まで

☎06-4392-8200

FAX06-4392-8206

※FAXでの申し込み可能な期間は、利用日の6か月前の午前9時30分から利用日の3日前までです。



■会議室等の使用料

利用できる貸室および料金は、次のとおりです。ご予約は利用日の6か月前からです。

室区分	利用人員のめやす	時間区分	午前	午後	夜間	昼夜間
			9:30～12:30	13:00～17:00	18:00～21:00	9:30～21:00
4階	会議室	99	3,800	5,100	3,800	11,400
	会議室 東	45	1,900	2,600	1,900	5,800
	会議室 西	54	2,900	3,800	2,900	8,600
	介護実習室	36	5,700	7,600	5,700	17,100
	演習室	18	1,000	1,300	1,000	3,000
5階	大会議室	144	5,800	7,700	5,800	17,400

(単位:円)

交通／ご来所には【大阪シティバス】【JR】【地下鉄】をご利用ください

大阪シティバス
「長橋二丁目」バス停すぐ
52系統(なんば～あべの橋)

JR大阪環状線・大和路線
「今宮」駅から徒歩約9分

地下鉄・四つ橋線・御堂筋線
「花園町」駅(①・②出口)から徒歩約15分
「大国町」駅(⑥出口)から徒歩約15分

所在地／〒557-0024 大阪市西成区出城2丁目5番20号
設置主体／大阪市
運営主体／(指定管理者)
社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会
電話／☎06-4392-8200(代表)
ファックス／FAX06-4392-8206
URL／http://www.wel-osaka.jp/

Facebookもチェック



「ウェルおおさか」に広告を掲載しませんか

詳しくはお問合せください…▶大阪市社会福祉研修・情報センター
☎06-4392-8201 FAX06-4392-8272 ✉kensyu@shakyo-osaka.jp

人権啓発キャッチコピー

〔テーマ〕外国籍住民をめぐる人権

違うから学べることもあるんだね

いわなか 岩中 幹夫さん(平成29年度「人権に関する作品募集事業」キャッチコピー 一般の部 優秀賞)